



第48回九州女子選手権競技

競技報告 (2018/ 5/15-17)

写真と記事 : M. Kikutake

通算7アンダー 209

福岡・沖学園高3年 17歳

後藤未有(鷹羽ロイヤル)が2年ぶり2度目の優勝

福岡県糸島市のザ・クイーンズヒルゴルフクラブ(6407ヤ、パー72)で5月15日から3日間行われ、通算7アンダー、209をマークした福岡・沖学園高3年、17歳の後藤未有(鷹羽ロイヤル)が2年ぶり2度目の優勝を飾った。

後藤は初日66、2日目69と快調に飛ばし、後続に6打差をつけて迎えた17日の最終日は74とスコアを乱したものの、前日までの貯金が効いて逃げ切り、3日間、首位を譲らない完全優勝だった。

佐渡山理莉(オリオン嵐山)の

追いつけならず

3打差、通算4アンダー、212の2位は日本ゴルフ協会(JGA)ナショナルチームメンバーの沖縄・名護高3年、佐渡山理莉(オリオン嵐山、18歳)。首位に8打差、5位タイで迎えた最終日はベストスコアの69をマークして追いつけたものの、2年連続で2位に泣いた。首位に5打差、214の3位タイはいずれも17歳の沖縄・宜野座高3年、新城莉李亜(ベルビーチ)と、熊本国府高3年、鬼塚貴理(グリーンランドリゾート)の2人。さらに1打差、215の5位タイには鹿児島・神村学園高3年、皆吉愛寿香(鹿児島高牧、18歳)と福岡・沖学園高3年、澁澤莉絵留(北山、17歳)の2人が入った。

前回優勝の熊本国府高3年、奥山友梨(グリーンランドリゾート)は不調で37位タイに終わった。

3日間競技になって3年。選手権は季節外れの暑さが続く中での大会となったが、今年も高校生のジュニアが主導権を握った優勝争いになった。

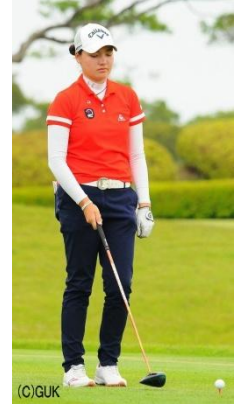
初日は174人(欠場7人)が出場して行われ、15人がアンダーパーをマークする混戦のスタート。94位タイまでの107人が進んだ第2ラウンドはやや風も出て、通算でのアンダーパーも半減。最終日の第3ラウンドは69位タイまでの72人が進出した。最終的にアンダーパーをマークしたのは6人だった。



日本女子アマは 20 人が出場権

この試合の結果、第 60 回日本女子アマチュア選手権（6 月 19 日から 4 日間、埼玉県・嵐山 CC）には 222 の 16 位タイまでの 16 人と、223 で 18 位タイの 5 人の中から規定により選抜した 4 人の計 20 人が出場権を獲得。これにナショナルチームメンバーの 1 人が有資格者となる。

（写真は 3 位タイになった鬼塚貴理[㊟]と新城莉李[㊟]）



後藤未有 完全でも冷や汗の勝利

「日本女子アマは優勝を狙ってギアを上げていく」



最終日は後続に 6 打差をつけてのスタート。前 2 日間の出来から楽勝かと思われたが、ホールアウトするまでわからないもの。「勝ったのはうれしいけど…」と薄氷を踏む勝利に喜びも半分、といった表情の後藤未有だった。

最終日を 5 位タイで迎えた佐渡山理莉との差は 8 打あった。ところが前半、1 バーディー、1 ボギーと足踏みしている間に佐渡山は 3 バーディーで 5 打差として後半へ。「ヤバいな」という思いがよぎったという後藤だが、エンジンはかからない。13、15、17 番と 3 ボギーを重ね、前を行く佐渡山は 14 番でバーディーを奪っており、17 番の時点で 1 打差までに迫られていた。結局は最終 18 番が明暗を分けた。佐渡山は 10 回のロングパットを打ちきれず、3 パットのボギー。バーディーの後藤は 3 打差をつけて逃げ切ったかこうだ。

13 日に終わった女子プロツアーの「ほけんの窓口レディース」（福岡 CC）に出場。アマチュアでただ 1 人予選を突破し、42 位タイでベストアマに輝いた。余勢をかっての今大会。だが、前週から続く長丁場はボデーブローのように効いてきたのか、最終日に顎を出すことになった。「ショットがよくなって、風も強くなり、距離感がダメだった」と振り返った。

前回このタイトルを取った時はまだ、高校 1 年生だった。昨年は連覇を狙いながらスコアを伸ばせず 3 位タイ。「悔しい思いもずいぶんしました」。今回は満を持してのリベンジ。昨年の自分とどう変わったのか、という質問には「本格的にトレーニングをやるようになって、体幹が強くなった。ウエートトレ、腹筋など体の回転に影響するバランスが良くなった」と説明してくれた。シーズンオフの今年に入り、トレーナーについた。その結果が「体のことを心配し

なくてよくなった」と言い、薄氷を踏む思いであっても勝利に結びついたのだと言うのだ。

高校最終学年の今年、プロテストに挑戦する予定だ。その前に、ジャパンのタイトルは欲しいところ。「優勝は狙います。そのためにギアを上げていきます」。そう力強く語ってくれた。

「捕らえきれなかった」と佐渡山理莉

○…JGAのナショナルチームメンバーの佐渡山理莉。まだこの大会のタイトルを手にしていない。昨年は2日目に首位に立ちながら、最終日に崩れて2位。それだけに期するところもあっただろうが、「私は追う立場。自分のゴルフをしようと考えて行った」という。スコアを伸ばせない後藤に対し、ヒタヒタと迫った。が、あと一歩のところできり逃げした。この後はもちろん、日本女子アマ。昨年は2位。今年は「狙っていきます」と力をこめた。

